

2016年2月

ジカウイルス感染症 2月15日から、四類感染症に指定されます！

ジカウイルス感染症は、ヤブカ属の蚊(ネッタイシマカやヒトスジシマカ)によって媒介されるジカウイルスによる感染症です。これまでアフリカ、中央・南アメリカ、アジア太平洋地域で発生があり、特に近年は中南米で流行しています。

2日～12日の潜伏期間の後、主な症状として、軽度の発熱、発疹、結膜炎、筋肉痛、関節痛、倦怠感、頭痛などを呈します。有効なワクチンや治療薬がなく対症療法となります。ブラジル保健省が、妊娠中のジカウイルス感染と胎児の小頭症に関連がみられるとの発表をしており、現在、WHOで小頭症や神経障害とジカウイルスとの関連についての調査を行っています。

感染経路は蚊媒介性で、ウイルスに感染した患者を蚊が吸血すると、蚊の体内でウイルスが増殖し、その蚊が他者を吸血することでウイルスが感染します。ネッタイシマカは日本には常在していませんが、ヒトスジシマカは日本のほとんどの地域(秋田県及び岩手県以南)に生息しています。日本国内で感染した症例はありませんが、海外の流行地で感染し、発症した症例が2013年以降3例国内で見つかっています。

予防策として、海外の流行地へ出かける際は、長袖・長ズボンの着用等できるだけ肌を露出せず、虫よけ剤(DEETを含むものが効果が高い)を使用するなど、蚊に刺されないよう注意してください。

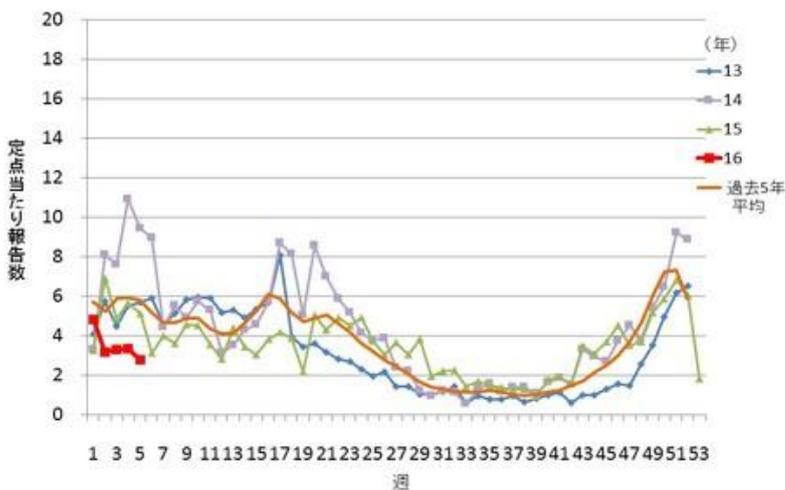
【参考】厚生労働省 HP、国立感染症研究所 HP(蚊の画像の出典を含む)



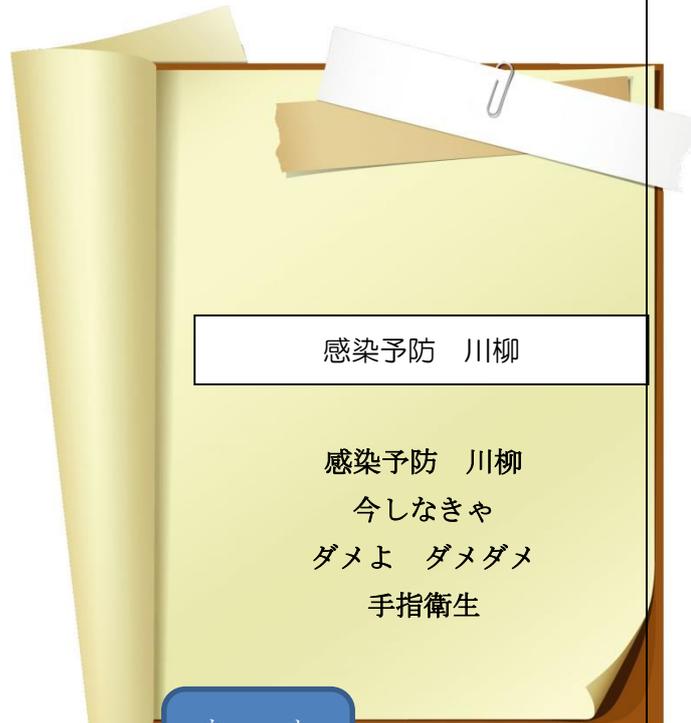
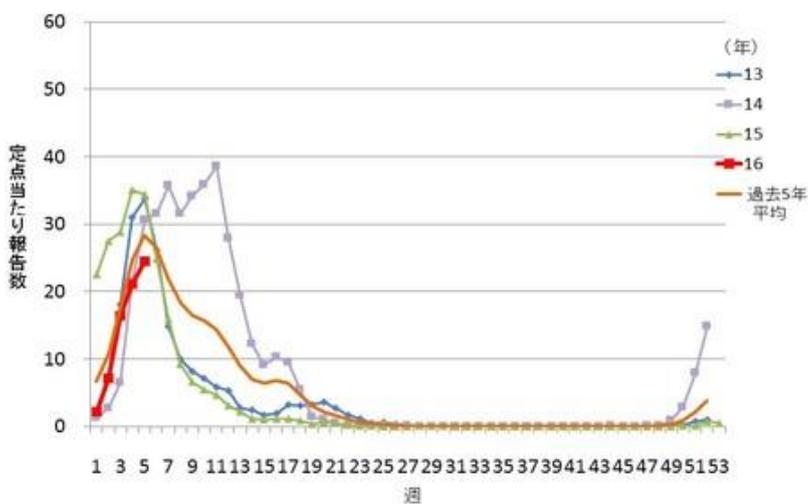
冬季流行感染症情報！

今年は例年より発生状況が少ない状況です。気候との関連性もあるといわれています。
 温暖の差が激しいので体調管理含め、平時の対策を実施してきましょう。

青森県の感染性胃腸炎 定点当たり報告数
 (2013-2016年)



青森県のインフルエンザ 定点当たり報告数
 (2013-2016年)



ちょっと
 古いか

手指衛生 5つのタイミング

